

# 土木建築 工事基本知識講座

昭和2年 第10編の2

## コンクリートに関する誌上講演

### 鐵筋混凝土の耐震價値と施工法

工學博士 阿部美樹志

2

前號で申上げました様な次第で、私があちらへ参りまして實驗致します事がハツシした目的の様で御座いますが、之を解決する爲めには一體

#### どんな實驗材を使つたら好いか

云ふことを考へまして、凡そ見込を立てあちらへ参りまして、結局十七、八個程の試験材を作りまして、それを實驗致しました。それは圖に示した様なフーレムが合計十個、それからシングルビームが四個、短柱が一個建築のモデルが二個、鐵骨フーレム一個、是は現在歸朝後に此方で作つて居ります、其他にも強度及び混凝土の彈率を決定します爲に架構一個に付六個でありますから、約一百個程のテスト、シリンダーを作つてそれを實驗に供しました。

圖に示しましたのは建築或は土木に使ひます架構の單位であります、之れを私はA2と名づけて見ましたが、A型が三個。B型が二個。C型云ふのが茲に壁體を全部に有するもので、D云ふのが部分的に壁體のありますもので、E云ふのが材料は同量でありますが少しく勾配を付けた柱。F云ふのが階が二個程ほごあります。只今試験中ののが鐵骨で出来て居ります。高さ十五尺の二張間試験架構で

あります。Gは此等の試験材の一部分云ふ形である。此のスペシメンは柱のやうなもので高さが六尺位ありまして、凡そ柱の大きさは八吋角であります。梁材の大きさは八吋に十吋まで實際に使ひます大きさの約半分に相當する積であります。

**A3** 云ふのは縦のみの位置で、接合線なしに使つたものでありまして、ベースも柱も梁も共に同日に打つて居ります。それから

**A2** 云ふのは圖の網目の所で、一日だけ休んで、ベースは今日造りまして、是から上は其翌日造る。茲にコンストラクション、ジョイントを作つたのであります。

**A4** 云ふのは、柱の下部と梁の下の二個所に打継點を有するのであります。次に打継なく、又大きな「ハンチ」を付けただけが變つて居るものもあります。其他A屬云ふのは皆同様であります。

**B2** 云ふのは茲で柱の脚部を指す打継をやりまして、其部分に更に前號で申したやうに補助筋を此ジョイントに入れまして、ジョイントを改良したものであります。

梁材では徑間の真ん中にジョイントを設けたもの二個、設けないもの二個、柱は全然打継點を設けて居りません、此等の試験材を

どう云ふ具合に振動さしたか